



官民の二人三脚で災害時の
上下水道サービスを考える。

ENGINEER'S VOICE

水環境部門 水工系グループ 主任 **前田 雄生**
(技術士補 建設部門)

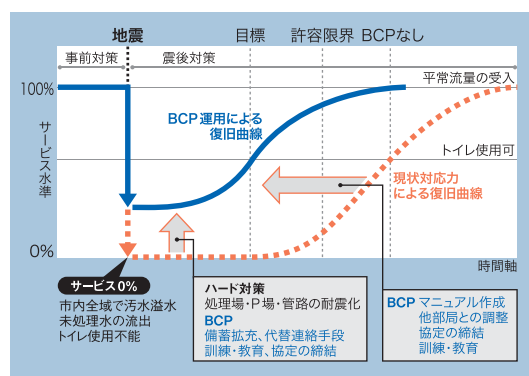
聞き手: NiX 情報誌編集委員会

求められる震災対応力の向上

Q BCPとはどのようなものですか？
既存の防災計画と何が違うのでしょうか？

まず、これまでの防災計画では想定に含めていなかった、ヒトの被災や業務を行う施設そのものの被災、活動に必要な道具や燃料などの資機材の被災・不足を考慮するところが違います。BCPとはそうして考慮した、限られた人員、資機材で、「災害時でもやらなければならない業務」と「どうしてもできないから停止する業務」を選定して、災害発生から早期に業務を再開するための計画です。

阪神淡路大震災以降、インフラはハード整備で地震対応力を向上してきましたが、ハード対策



下水道BCPの概念図

を補うため、BCPが近年注目されてきました。

Q コンサルタントとしてどのような検討、提案を行なっているのですか？

作成した下水道BCPにより活動することに

なるのは、下水道部局の職員の皆様になりますので、こちらでは決断できない事項もあります。そういった事項については、データの整理支援などを行い、現実的に可能な計画かどうかを判断する材料を提示させていただきます。また、下水道BCPの例では管路調査の調査計画として、どこから人員を派遣するのか、1日に1チームがどれだけ調査できるのかGIS(地理情報システム)を用いて解析し、調査計画を提案させていただきました。



(背景図: (C) ESRI Japan)

調査ルート of 解析



調査班を派遣する区域の優先順位付け

Q BCP業務に携わって感じたことは?

あくまでも、BCPを作成することはきっかけづくりにしかならないということです。計画しても有事に使用しなければただの紙ですので、毎年人事異動を反映したり、訓練することで各々の役割を認識して頂く必要があります。

また、何より大事なことは人一人が欠けることの影響が非常に大きいことです。上下水道部局の職員の皆様が警察官や消防官の方々に準じる防災意識を持って頂く必要があると感じています。BCPは、有事に備えて貴重な

人員を効率的に配置、活動させるための計画だと感じています。

Q BCPはいわゆるソフト対策なのですか?

ソフト対策というくりでは収まらない発展性があります。例えば、施設の整備・更新計画を考えていくうえで有益な材料になります。具体的な活動計画を検討する中で、既存ハードの弱点や少し改良するだけで大きな対策効果を得られる施設が発見されたり、逆に施設が耐震化されていないことで、非現実的な必要資材の数量が算出されたり、ということがありました。

非常時の業務を考慮し、既存の施設の整備・更新計画を見直すことで、より大きな費用対効果を生み出せることに気付かされました。

Q BCP策定業務に対する思いと、今後の展望

現在、携わらせていただいたBCPの業務では、お客さまであり、業務を監督していただいている職員の方々、ならびに関係部局の皆様にご多大なご協力を頂いて、なんとか遂行している状態ですから、感謝の念はつきません。これに報いるため、有事の際に「BCPがあっけよかった」と思っていただけのような計画ができるよう頑張らせていただいております。また、BCPを作った者として、また一コンサルタント技術者として有事の際には、自ら駆けつけ、お役に立ちたい想いで業務に携わらせていただいております。

今後の展望としては、先述のとおり、BCPは計画しただけで終わってはいけないものです。更新や訓練に対しても支援をさせていただき、計画マネジメント支援をさせていただきたいと思っております。

昭和61年5月11日生まれ、富山市在住
金沢大学 工学部 土木建設工学科卒業
「迅速な下水道BCP策定について」一連の業務で、
インフラストラクチャー研究会様、(社)建設コンサルタント協会様より特別賞を受賞しました。



「想定外」を少しずつ減らしていく、
そのための検討、支援、提案をいたします。